

三位一体の隠された神

太陽神と大地神（水神）・男女神

三角祭祀線を調べていて気づきましたが、現在の神社は、強い神社が脇侍的に二つの神社を支配する三角のパターンが多く、これが「三位一体」のしくみだと思っていました。しかし、それ以前の古い時代の神様は太陽神（男）・大地神（女）の二神で祀られていたようなのです。さらに、二神合わせて一つの神様としても祀られていたのではと思うようになりました。たとえば、手長・足長神、猿田彦・弁財天、イザナギ・イザナミ、夫婦道祖神…

植物は太陽の光と大地の水分で育ち実りをもたらします。きっと、どんな生き物も私たち人も、太陽と大地は欠かせない存在です。もちろん男女は一緒になると子供（恵み）が産まれる形でもあります。卑弥呼は「日水子」で、太陽と大地を親神とする縄文時代の首長（巫女）の呼び名だったのではないのでしょうか。

また、人の体は多くの水で作られています、女性の体と関係のある「月」も水の神になるそうです。たしかに日と月で明神となります。信仰万物はすべて陰陽、雌雄、+と-の関係にあります。この太陽と大地のように陰陽が一体となった状態の合体神こそが本来の産土神的存在だったのではないのでしょうか。

アラハバキ神

東北に残る縄文時代の神「アラハバキ神」について考えました。「ハバキ」は刀の根元をしっかりと締めるための金具のことを言うそうです。刀を通すその穴のあいた金具は女性器に通じる意味があるのではと推測し、大地系の女神かもしれないと思いました。

民俗学者の吉野裕子氏は、「ハバキ」の「ハハ」は蛇の古語であり、「ハハキ」とは「蛇木（ははき）」あるいは「竜木（ははき）」であり、直立する樹木は蛇に見立てられ、古来祭りの中枢にあったもの」と説きました。ハバキ神は伊勢神宮で辰巳の方角に祀られているそうです。竜蛇神は大地系女神の象徴です。



多賀城市のアラハバキ神社

近江雅和氏は、アラハバキ神がのちに荒神になったとし、「アラ」は太陽の男神「アッラー」からきていると説明しています。

とすれば、アラハバキ神は、太陽の男神「アッラー神」と大地の女神「ハバキ神」の合体神と考えられるのではないのでしょうか。

アラハバキ族は、太陽神と大地神の合体神アラハバキ神を信仰していた一族だったのだと思います。

ひたかみ・ちたかみ・さるたかみ

もしかしたら、太陽神を日の太神（ヒノフトガミ）で日太神（ヒタカミ、日田神・日高見）と呼んだのではないのでしょうか。東北は日高見国とも呼ばれていたようです。日田や飛騨の地名もこれが由来だと思います。

そして、大地の神を地の太神（ちのふとがみ）、千太神（チタカミ、地田神）と呼んだのではないのでしょうか。千は神を表す言葉だそうです。

さらに、太陽（火=か）と大地（水=み）が一体となった合体神こそが、申の太神（サルノフトガミ）すなわち猿田神（サルタカミ、申太神、申田神）だと思うのです。石仏の夫婦地蔵（男女神）のことも道祖神と呼びすなわち猿田彦神です。男根を大地に祀るのも道祖神。

この合体神の申太神も古代の産土神的存在だったのではないのでしょうか。そう考えたのには大きな理由があります。

御田植え祭

志摩の伊雑宮や伊勢の猿田彦神社の御田植祭では、大地に立てた1本の柱に太陽の神を下ろして豊穡を祈るものとされています。この柱も大地の象徴竜蛇木「ははき」ではないでしょうか。

大地の女神を象徴する竜蛇の柱「|」に、男神の太陽の「日」を上から挿すと漢字の「申」になります。太陽と大地の合体により恵みをもたらすこの「申太神」こそ、伊雑宮御田植祭の柱アラハバキと同じ古代の最も尊き神だったのではないのでしょうか。田んぼの「田」も水田の形状を模した字ではなく、申太神の恵みの場所を表した字かもしれません。

そして、もしかしたら大地神を表す漢字が「千」だとしたら、立てるのは「十」かもしれません。「千」の上の斜めの線は人と神の境界を表すそうです。その境界をはずし、太陽の「日あるいは口（丸）」を挿した形なのかも知れません。ちなみに大地に十字架を立てれば「土」になります。

そんなことを考えていたら、若い頃に訪ねたアイルランドのケルト十字架を思い出しました。十字につけた円環は太陽を表しているのです。

また、猿田彦神を祀る伊勢の二見興玉神社で見つけた丸に十字の「輪しめ縄」も同じ形です。申は、太陽と大地の合体神を表す古代万国共通の形だったのではないのでしょうか。

※ちなみに千田姓は、1位が岩手県2300世帯、2位宮城県710世帯、3位北海道650世帯と早池峰山のある岩手県が抜きん出て多いです。



申（さる）の意味

「申」という字は「神」の字に入っています。「さる」は、隠すことに使われています。庚申の夜、睡眠中に体内の三尸虫が逃げ出してその人の罪を天帝に告げるので虫が逃げぬよう徹夜する風習の庚申信仰。その庚申塔には青面金剛像とともに見ざる、言わざる、聞かざるの「三猿」が刻まれています。また、「さる人、さる所、さる事実はない」のように、名前を出せない事情がある場合に使われています。「敵もさる者」のように優れたことを表す言葉でもあります。なによりいなくなる「去る」があります。

私は以前、京都御所の鬼門の角「猿が辻」から丑寅（東北）の方角の写真を撮ろうとして塀の下に入ったとたんに非常ベルが鳴って驚いたことがあります。今でもここは重要な位置なのでしょう。

太陽神と大地神が合体した本当の神はやはり京都御所の東北に位置する大朝日岳・大沼そして早池峰山に隠されているのではないのでしょうか。

饒速日命・瀬織津姫・天之御中主神

全国の三角祭祀線を調べていると饒速日命（ニギハヤヒノミコト）と瀬織津姫（セオリツヒメ）がなにかと出てきて、きっとこの男女神が大和朝廷に伏せられてきた元々の二神だろうと確信するようになりました。早池峰山も瀬織津姫が祀られていますし、大朝日岳や大沼も古くは弁財天や龍蛇神信仰の聖地でした。弁財天は、本当は瀬織津姫という説があります。

饒速日命と瀬織津姫。この夫婦神の合体神は誰だろうと長年考えていました。ある時のこと、なぜか私の口から無意識に「天之御中主神（アメノミナカヌシノカミ）」とスラスラと何度も独り言のつぶやきが出て驚いたことがありました。神様の名前はどれも覚えづらいものです。天之御中主神は、それまで何度か目にはしていましたが読み上げることもなかったのです。その不思議さに、きっと私の求める

最も尊き合体神かもしれないと心に留めるようになりました。しかし、得られる情報は見つけれず何年も保留していました。

ところが、購読している巫女的な女性が書いているブログに、まさに「女性性（陰）の瀬織津姫と男性性（陽）の饒速日命、その二つでひとつの天之御中主。これが三位一体」と紹介されました。このブログには私の考えを肯定することがいくつも書かれてあり驚きました。

<https://ameblo.jp/coo-boo-toma/day-20170827.html>

分類

「三位一体」の神様を、これまで読んだ文献やサイト情報、そして私の推測で分類してみました。

	陽・男・太陽	三位一体の合体神	陰・女・大地（水）
1	日太神（ひたかみ・男神）	申太神（さるたかみ）	千太神（ちたかみ・女神）
2	饒速日命	天之御中主神	瀬織津姫
3	荒神	アラハバキ神	ハバキ神
4	クナト神（岐神・久那斗神）	猿田彦神	アラハバキ神（荒吐神）
5	地蔵（クナト神）	道祖神（夫婦地蔵・猿田彦神）	弁財天（アラハバキ神）
6	大日如来	不動明王	弁財天・如意輪観音・十一面観音
7	大日如来	俱利伽羅龍	龍神・弁財天
8	荒魂	御霊	和魂
9	大日如来	歓喜天	十一面観音・弁財天
10	足長神	?	手長神
11	白（ハク・饒速日命）	天之御中主神	千尋（瀬織津姫）
12	日神	明神	月神（水神）
13	日神	日水子	水神

※13は合体神というよりも人間界とのパイプ役の巫女的存在

（備考）

3、4について

吉田太陽著 『謎の弁才天女』（徳間書店）には、出雲神族四八九代の首長（かみ）・富當雄（まさお）氏が、生前「我々の大祖先はクナトの大首長（おおかみ）〈岐神（ふなとのかみ）〉だが、もう一つ隠された女（め）首長にアラハバキ（荒吐神）があった。体制側によってこれらが抹殺されようとしたとき、クナトは地蔵に、アラハバキは弁財天へと変身した」と書かれてあります。

これは、大和族（天孫族）以前には、岐神を信仰する出雲族とアラハバキ神を信仰する荒吐族が共に日本を統治していたことを表すのではないのでしょうか。

5、について

不動明王は大日如来の憤怒した姿とされますが、不動明王と弁財天あるいは観音との三位一体神だと思います。炎の光背や剣が太陽の象徴ですが、祀られている場所は水が荒ぶる滝（龍神）です。

大和族（天孫族）に負けた出雲族は山に拠点を移し山岳修験を信仰する産鉄族となり、太陽神は大日如来、大地神は弁財天や観音として信仰していたのではないのでしょうか。



醍醐寺蔵



金乗寺

6. について

倶利伽羅龍の竜は大地神、飲みこむ剣は太陽（不動明王）の象徴。不動明王が衆生の煩悩や邪悪を火炎で焼き尽くす極限の形相を現しているとされます。

近頃、頻繁に起こっている火山や地震、水害などの大地の怒りは、まさに煩悩や邪悪を焼き尽くし、気づかせようとする太陽と大地の神が合体した一体神不動明王の示現なのかも知れません。

備考

「千と千尋の神隠し」千尋とハクが再開し出会いを思い出す最後のクライマックスシーン。まさに隠されていた饒速日命と瀬織津姫の再会、その瞬間に二人は三位一体神の天之御中主神になったのでしょうか。このアニメを見た多くの人がその瞬間に鳥肌を立てて感動したのは、私たち自身の中にも隠されていた天之御中主神（アメノミナカヌシノカミ）につながった瞬間だったからなのかも知れません。

私も太陽と大地に感謝し、陰と陽の調和した「三位一体」で生きていこうと思います。



2017. 8月 リュイテン太陽